

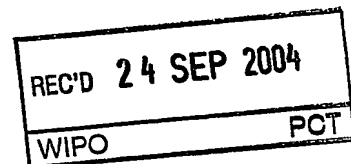
日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

29. 7. 2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 3 年 1 1 月 2 1 日



出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 3 - 3 9 2 2 0 6  
[ST. 10/C]: [ J P 2 0 0 3 - 3 9 2 2 0 6 ]

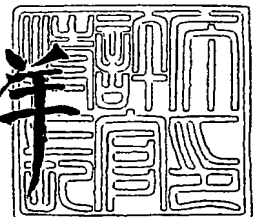
出 願 人  
Applicant(s): 株式会社リコー

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1 (a) OR (b)

2 0 0 4 年 9 月 1 0 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川 洋



【書類名】 特許願  
【整理番号】 0304220  
【提出日】 平成15年11月21日  
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿  
【国際特許分類】 G11B 7/0045  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内  
    【氏名】 二宮 正樹  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000006747  
    【氏名又は名称】 株式会社リコー  
    【代表者】 桜井 正光  
【代理人】  
    【識別番号】 100101177  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 柏木 慎史  
    【電話番号】 03(5333)4133  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100102130  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 小山 尚人  
    【電話番号】 03(5333)4133  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100072110  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 柏木 明  
    【電話番号】 03(5333)4133  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 063027  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9808802  
    【包括委任状番号】 0004335

**【書類名】特許請求の範囲****【請求項 1】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録方法において、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記試し書き領域が各記録層に形成され、当該試し書き領域は異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う前に当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う、ことを特徴とする記録方法。

**【請求項 2】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録方法において、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記試し書き領域が各記録層に形成され、この記録層が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、前記各記録層に順次情報記録を行う場合に、この情報記録を行う前に前記各記録層の前記各試し書き領域で前記試し書きを行ない、この際、前記第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う前に当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う、ことを特徴とする記録方法。

**【請求項 3】**

前記光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にまだ情報の記録がなされていないときは、前記部分に記録を行うことなく当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で試し書きを行う、ことを特徴とする請求項1に記載の記録方法。

**【請求項 4】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録装置において、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記が各記録層に形成され、当該試し書き領域が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第2層目以降の記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、

この記録後に当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う試し書き手段と、

を備えていることを特徴とする記録装置。

**【請求項 5】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録装置において、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記試し書き領域が各記録層に形成され、この記録層が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、前記各記録層に順次情報記録を行う場合に、この情報記録を行う前に前記各記録層の前記各試し書き領域で前記試し書きを行なう試し書き手段と、

この試し書きの際、前記第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う前に当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、

を備えていることを特徴とする記録装置。

**【請求項 6】**

前記試し書き手段は、前記光の入射側から数えて第 2 層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にまだ情報の記録がなされていないときは、前記前処理手段で前記部分に記録を行うことなく当該第 2 層目以降の記録層の前記試し書き領域で試し書きを行う、ことを特徴とする請求項 4 に記載の記録装置。

**【請求項 7】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う処理を記録装置に実行させるコンピュータに読み取り可能なプログラムにおいて、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記が各記録層に形成され、当該試し書き領域が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第 2 層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第 2 層目以降の記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該第 2 層目以降の記録層の前記試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、

この記録後に当該第 2 層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う試し書き手段と、  
をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

**【請求項 8】**

記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う処理を記録装置に実行させるコンピュータに読み取り可能なプログラムにおいて、

前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記試し書き領域が各記録層に形成され、この記録層が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、前記各記録層に順次情報記録を行う場合に、この情報記録を行う前に前記各記録層の前記各試し書き領域で前記試し書きを行なう試し書き手段と、

この試し書きの際、前記第 2 層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う前に当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、  
をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

**【請求項 9】**

前記試し書き手段は、前記光の入射側から数えて第 2 層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にまだ情報の記録がなされていないときは、前記前処理手段で前記部分に記録を行うことなく当該第 2 層目以降の記録層の前記試し書き領域で試し書きを行う、ことを特徴とする請求項 7 に記載のプログラム。

**【請求項 10】**

プログラムを記憶している記憶媒体において、

前記プログラムは請求項 7～9 のいずれかの一に記載のプログラムである、ことを特徴する記憶媒体。

【書類名】明細書

【発明の名称】記録方法、記録装置、プログラム、および記憶媒体

【技術分野】

【0001】

本発明は、記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録方法、記録装置、及びプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献1には、記録層が多層構造である多層光ディスクの第2層目以降の記録層に対して情報を記録する際に、その記録層より光の入射側に位置する記録層の記録状態により透過光量に変化しても、記録レーザ光のレーザパワーの適切な制御を行なうことができ、良好な特性で情報を記録することができるようにすることを目的とする技術が開示されている。すなわち、レーザ光源からのレーザ光は光ピックアップにより光ディスクの記録膜表面に収束され、戻り光は光検出部で検出され、制御部に入力され、レーザドライバのパワーコントロールが行なわれるが、ユーザデータの記録を行なう前に、制御部が、ユーザデータ記録領域以外の記録パワーテスト領域にて、記録パワーのテストを行なって記録パワーを決定し、決定された記録パワーに基づいてユーザデータ記録領域にユーザデータの記録を行なう、とするものである。

【0003】

【特許文献1】特開2003-22532公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

従来の単一の記録層しか持たない単層構造の記録媒体に対して記録を行う際に、個々の記録装置のばらつきや記録速度、記録媒体の特性等の条件により記録を行うための最適なレーザパワーは異なるため、情報の追記又は書き換えを行う場合に、所定の試し書き領域でのレーザの最適記録パワー制御（OPC：Optimum Power Control）行っている。そして、OPCは同一記録面に複数の記録層を持つ多層構造の記録媒体（多層記録媒体）に情報の追記又は書き換えを行う場合にも行わなくてはならない。

【0005】

そして、このような多層記録媒体に情報の記録を行う場合、次のような課題がある。

【0006】

1. 例えば、同一記録面に2つの記録層を持つ2層構造の多層記録媒体の場合、第2層目に情報を記録する場合、第1層目の記録層を透過して、第2層目に情報を記録することになる。従って、第1層目が消去状態（高反射率、低透過率）か記録状態（低反射率、高透過率）かによって、第2層目に到達する光ビームの光量に変化してしまい、最適な記録パワーが変わってしまう。この最適な記録パワーの変動はジッタ、エラーレートなど第2層目の記録特性の劣化に繋がってしまう。

【0007】

2. 第1層目と第2層目の試し書き領域が互いに重ならないようにずらして配置されている、追記又は書き換え可能な多層記録媒体に情報の記録を行う場合、第1層目の情報記録は第1層目の試し書き領域でOPCを行うことにより最適記録パワーが求められるが、第2層目に情報を記録する場合、第1層目は既に記録状態になっており、第2層目の情報記録は低反射率、高透過率の状態で記録することになる。この場合の第2層目の試し書き領域はずらして配置されているので、第1層目は消去状態であり、これから実際に情報を記録しようとしている第2層目の状態とは異なる状態になっている。

【0008】

本発明の目的は、多層記録媒体の第2層目以降の記録層に情報の記録を行う場合に、試し書きにより最適な記録パワーを求めることができるようにすることである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0009】

本発明は、記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録方法において、前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記試し書き領域が各記録層に形成され、当該試し書き領域は異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う前に当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う、ことを特徴とする記録方法である。

## 【0010】

別の面から見た本発明は、記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う記録装置において、前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記が各記録層に形成され、当該試し書き領域が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第2層目以降の記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、この記録後に当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う試し書き手段と、を備えていることを特徴とする記録装置である。

## 【0011】

別の面から見た本発明は、記録媒体の試し書き領域で試し書きを行って最適な記録パワー値を求め、この最適な記録パワーで前記記録媒体に対して情報の記録を行う処理を記録装置に実行させるコンピュータに読み取り可能なプログラムにおいて、前記記録媒体が同一記録面に複数の記録層を持つ多層記録媒体であって、前記が各記録層に形成され、当該試し書き領域が異なる記録層間では同一記録面に重ならないように配置されているときに、光の入射側から数えて第2層目以降の前記記録層に情報記録を行う場合に、当該記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層にすでに情報の記録がなされているときは、当該第2層目以降の記録層より前記光の入射側に位置している前記記録層で当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域と同一の記録面に位置する部分に記録を行う前処理手段と、この記録後に当該第2層目以降の記録層の前記試し書き領域で前記試し書きを行う試し書き手段と、をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラムである。

## 【発明の効果】

## 【0012】

本発明によれば、多層記録媒体の第2層目以降の記録層に情報の記録を行う場合に、最適な記録パワーを求めることができる。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0013】

本発明を実施するための最良の一形態について説明する。

## 【0014】

図1は、本実施の形態に用いる多層記録媒体201の構成を示す説明図である。この多層記録媒体201は、同一記録面に複数の記録層（この例では、第1層202、第2層203の2層構造）を持つ多層構造の記録媒体で、光学的に情報の記録、再生を行うことができる光ディスク、光磁気ディスクなどである。

## 【0015】

多層記録媒体201は、第1層202、第2層203とも、情報を記録するデータ領域202a、203aを有するほか、内周側、外周側に記録時に最適なレーザパワーを求め

る OPC を行うための試し書き領域 202b, 202c, 203b, 203c が設けられている。この試し書き領域 202b と 203b, 202c と 203c は、互いに多層記録媒体 201 の同一記録面に重なり合わないよう、各層 202、203 毎にずらして配置されている。

#### 【0016】

図 2 は、多層記録媒体 201 に対し、レーザの最適記録パワー制御を行なって情報の記録を行うための記録装置 101 の構成を示す。

#### 【0017】

多層記録媒体 201 などの記録媒体 D は、回転モータ 114 を駆動源として回転する。この回転モータ 114 はディスク回転制御手段 102 によって制御され、所定の速度で回転する。

#### 【0018】

ヘッド 103 は、サーボ手段 104 によってフォーカシングサーボ、トラッキングサーボを実現し、記録媒体 D の記録膜上に光ビームを集光させ、記録マークを形成する。また、記録媒体 D の半径方向に移動可能で、記録媒体 D にあらかじめ設けられた試し書き領域や、データ領域にアクセス可能である。

#### 【0019】

ヘッド 103 には図示しない光源が搭載されている。これは一般的には半導体レーザ (LD: Laser Diode) 用いられる。このレーザは LD ドライバ 112 によって、所定の記録パワー状態に、入力パルス信号で変調される。レーザが、記録パワー状態とスペースパワー状態の間で変調されることで、記録膜上には記録マークとそうでないところができる。これを再生すると反射率の差が生じて、情報信号として再生することができる。

#### 【0020】

記録マークは、記録媒体 D が DVD-R、DVD+R のような非可逆な有機色素媒体では、ピット (穴) であり、そうでないところはスペースと呼ばれる。

#### 【0021】

パワー設定手段 111 は、記録装置 101 を集中的に制御するコントローラ 107 から入力される記録パワー指令に応じて、LD ドライバ 112 を駆動し、レーザをそのパワーで光らせる。また、OPC 時には試し書きモードになり、順次記録パワーを可変する。

#### 【0022】

記録媒体 D に記録する記録データは、データ生成手段 113 で所定のフォーマットで符号化や変調処理がなされ、シリアル形式で記録データ列として出力される。

#### 【0023】

パルス幅の設定は、固定でもよいが、線速度やディスク種別に応じてコントローラ 107 によってそれぞれに設定するとなおよい。線速度やディスク種別による、記録マーク長ごとの感度の違いを吸収できるからである。

#### 【0024】

記録媒体 D の種別は、ヘッド 103 でディスクの特定場所を再生したときの再生信号を解読することにより検出する。この種別は、例えば、記録媒体 D を製造したメーカーを何らかの方法で特定できれば、メーカー別にしてもよいし、同一メーカーでもさらに細かく分類できればなおよい。他の種別の同定手法としては、例えば、記録媒体 D にあらかじめ埋め込んである各種パラメータを用いることもできる。例えば、推奨パワーやパルス幅などを埋め込んである場合はそれを用いてもよい。

#### 【0025】

あるいは、メーカーごとに特定のメーカー識別コード (ベンダーコード) を埋め込んでおく場合もある。さらに細分類のためのコードを埋め込んでよい。こうすることで、同一メーカーのさまざまな記録膜に応じて、最適なパルス幅設定 (Write Strategy) が可能になる。

#### 【0026】

次に、試し書き、すなわち、OPC (Optimum Power Control) について説明する。

## 【0027】

この試し書きは、ある線速度で記録パワーを順次変化させて記録し、その後、その記録位置を再生して記録状態を評価し、最適な記録状態になる記録パワーを決定する処理である。

## 【0028】

図2の記録装置101では、コントローラ107からの指令によりパワー設定手段111で、順次、記録パワーを変化させて記録することができる。記録媒体Dが多層記録媒体201である場合、試し書きを行う領域は、図1に示す、前述の試し書き領域202b, 202c, 203b, 203cである。

## 【0029】

この試し書き領域に記録後、ヘッド103で同じ記録位置を再生して再生信号(RF信号)を得る。このRF信号の適当なパラメータを評価することで、最適な記録状態が評価できる。例えば $\beta$ 値検出手段106では $\beta$ なるパラメータを測定する。

## 【0030】

この $\beta$ 値検出手段106は、RF信号の低域成分を除去(AC結合)して、その上側包絡線レベルaと下側包絡線レベルbを検出する。この説明を図3に基づいて行う。記録膜の特性として、記録マーク部で反射率が下がると仮定し、RF信号は低反射部で低レベルになるとする。そうすると、適正な記録状態のときAC結合されたRF信号は、図3(a)に示すように上下対称で、“ $a=b$ ”になる。また記録パワーが過大のときは、記録マーク部が長くなるから、図3(b)に示すように、AC結合すると上側レベルが高くなり“ $a>b$ ”になる。また記録パワーが不足のときは、記録マーク部が短くなるから、図3(c)に示すように、AC結合すると下側レベルが高くなり、“ $a<b$ ”になる。

## 【0031】

このaとbの差をRF振幅“ $a+b$ ”で正規化した量が $\beta$ である。すなわち、
$$\beta = (a - b) / (a + b)$$
である。

## 【0032】

ここで、 $\beta$ が大きいとパワー過大、小さいとパワー不足である。最適なパワーは $\beta$ がある値(例えば4%程度)になったときで、この $\beta$ を $\beta_{\text{target}}$ と呼ぶ。OPCは順次記録パワーを変化させて記録し、記録した部分の $\beta$ 値を評価し、 $\beta_{\text{target}}$ となるときの記録パワーを求めることにより行う。

## 【0033】

このときのパワーと $\beta$ の関係を図4に示す。図4では、記録パワーを10段階に変えて記録している。記録パワーを振る範囲をOPCレンジ(OPC Range)、このときの基準となる中心パワーをPdefと呼ぶ。OPCレンジはPdefに対して例えば+40%、-30%の範囲で10段階に可変する、あるいは、Pdefに対して+5mW、-4mWの範囲で1mWずつ振る、等の方法が考えられる。

## 【0034】

得られた10点の $\beta$ 値から $\beta$ カーブを曲線(2次)近似し、 $\beta_{\text{target}}$ となるパワーPopcを得る。温度変化等、OPCを実行する時点の条件により、Poptは多少変動することもあるため、通常条件ではPopcはなるべくPdef付近で求まる方が望ましい。また、Popcは記録媒体D毎に異なることが多いため、それぞれの記録媒体Dの種類に対応したWrite Strategyと共に設定する場合も多い。メモリ手段108は、不揮発性メモリを使用し、記録装置101毎にOPCパワー補正パラメータを保存する。

## 【0035】

次に、多層記録媒体201に対して、OPCを具体的にどのように行うか図5のフローチャートを参照して説明する。

## 【0036】

例えば、線速度一定(CLV: Constant Linear Velocity)で多層記録媒体201を回転させながら記録する場合、多層記録媒体201と記録を行うレーザビームとの相対速度



がいつも一定なので、記録パワーや記録パルス幅などの記録条件は、一度最適に決めてしまえば、多層記録媒体 201 の全面にわたり変える必要がない。

#### 【0037】

このため、内周部あるいは外周部の試し書き領域 202b と 203b、202c と 203c で、記録パワーを可変して OPC を行ない、これにより決定した最適記録パワーを用いて、同じ線速度で全面記録する。

#### 【0038】

図 5 に示すように、まず、コントローラ 107 は、第 1 層目の記録層 202 に対する情報記録は、単層の記録媒体 D に記録する時と同様に、内周部に配置されている試し書き領域 202b において OPC を行なって最適記録パワーを決定し（ステップ S1）、これに基づいて第 1 層目の記録層 202 のデータ領域 202a に情報記録を行う（ステップ S2）。第 1 層目のデータ領域 202a の情報記録が終了して（ステップ S3 の Y）、第 2 層目の記録層 203 に記録を行うが、このとき、第 2 層目の最適記録パワーを求めなければいけない。ここで、第 2 層目の試し書き領域 203b と、これから実際に情報の記録を行おうとしている第 2 層目のデータ記録領域 203a のレーザ入射側にあたる第 1 層目のデータ記録領域 203b の記録状態が異なることになる。

#### 【0039】

すなわち、第 1 層目の試し書き領域 202b と第 2 層目の試し書き領域 203b とは、前述のように同一の記録面において重ならないように互いにずらして配置されているので、第 2 層目の試し書き領域 203b のレーザ光入射側の第 1 層目の部分（図 1 の符号 202d）は消去状態（高反射率、低透過率）であり、これから記録を行おうとしている第 2 層目のデータ記録領域 203a は、第 1 層目の情報記録が終了しているため、そのレーザ光入射側の第 1 層目（データ記録領域 202a）は記録状態（低反射率、高透過率）となっている。

#### 【0040】

このまま、第 2 層目の試し書き領域 203b で最適記録パワーを求めることはできないので、実際の記録状態に合わせてから試し書きを行って、最適記録パワーを求めなくてはならない。そこで、第 2 層目へのレーザ光の透過状態をデータ領域 203a と試し書き領域 203b とで合わせるために、第 2 層目の試し書き領域 203b のレーザ光入射側で、この試し書き領域 203b と同一の記録面で重なっている第 1 層目の部分 202d に記録を行う（前処理手段）（ステップ S4）。

#### 【0041】

その後、第 2 層目の試し書き領域 203b で OPC を行なって最適記録パワーを決定し（試し書き手段）（ステップ S5）、第 2 層目のデータ記録領域 203a にデータの記録を行う（ステップ S6）。

#### 【0042】

図 6 は、別の処理例を示すフローチャートである。すなわち、コントローラ 107 は、第 1 層目のデータ領域 202a に記録を行う前に第 1 層目と第 2 層目の試し書き領域 202b、203b で OPC を行って第 1 層目および第 2 層目の最適記録パワーを予め求め（ステップ S1、S4、S5）、その後、第 1 層目と第 2 層目のデータ領域 202a、203a に順次データ記録を行う（ステップ S2、S3、S6）。

#### 【0043】

図 5 の処理に限らず、この図 6 の処理で記録を行ってもよいが、第 1 層目のデータ領域 202a の記録終了時には温度によりレーザ特性も変わっているため、第 1 層目の記録が終了して、第 2 層目の記録を開始する直前に OPC を行って第 2 層目の記録パワーを決定する図 5 の処理の方が最適なパワーを決定することができる。

#### 【0044】

また、図 1 に示すように、多層記録媒体 201 の外周部においても、第 1 層目と第 2 層目とでは試し書き領域 202c と 203c とが同一記録面で重ならないようにずらして配置されている場合に、この外周部の試し書き領域 202c、203c で OPC を実行する

場合も同様である。この場合は、ステップ S4 において、試し書き領域 203c と同一の記録面で重なっている第 1 層目の部分 202e に記録を行う。

【0045】

また、第 1 層目の記録層 202 に対して情報の記録が済んでいるか否かにかかわらず第 2 層目の記録層 203 に情報の記録を行う場合もある。かかる場合の処理を図 7 のフローチャートを参照して説明する。すなわち、コントローラ 107 は、第 1 層目のデータ領域 202a の情報記録がすでに終了しているときは（ステップ S3 の Y）、第 1 層目の部分 202d に記録を行った上で第 2 層目の試し書き領域 203b で試し書きを実行するが（ステップ S4～S6）、第 1 層目のデータ領域 202a の情報記録が行われていないときは（ステップ S3 の N）、第 1 層目の部分 202d に記録を行なうことなく第 2 層目の試し書き領域 203b で試し書きを実行する（ステップ S5, S6）。

【0046】

なお、図 5～図 7 の処理は、コントローラ 107 が備えているマイクロコンピュータの CPU が、その記憶媒体である ROM に予め記録されているプログラムに基づいて実行するが、記録装置 101 の図示しないホストコンピュータが、その記憶装置に記憶しているプログラムに基づいて記録装置 101 を制御し、図 5～図 7 の処理を記録装置 101 に実行させるようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0047】

【図 1】 多層記録媒体の構成を示す説明図である。

【図 2】 記録装置の電氣的な接続を示すブロック図である。

【図 3】 AC 結合を行って、上側包絡線レベルと下側包絡線レベルを検出する処理のフローチャートである。

【図 4】 OPC について説明する説明図である。

【図 5】 記録装置が実行する処理のフローチャートである。

【図 6】 記録装置が実行する他の処理例のフローチャートである。

【図 7】 記録装置が実行する他の処理例のフローチャートである。

【符号の説明】

【0048】

101 記録装置

201 多層記録媒体

202, 203 記録層

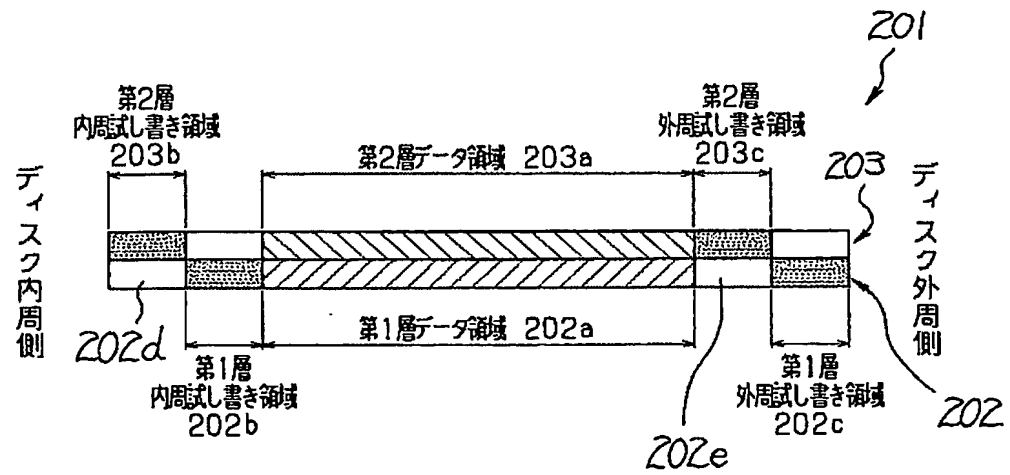
202a, 202b データ領域

202b, 202c, 203b, 203c 試し書き領域

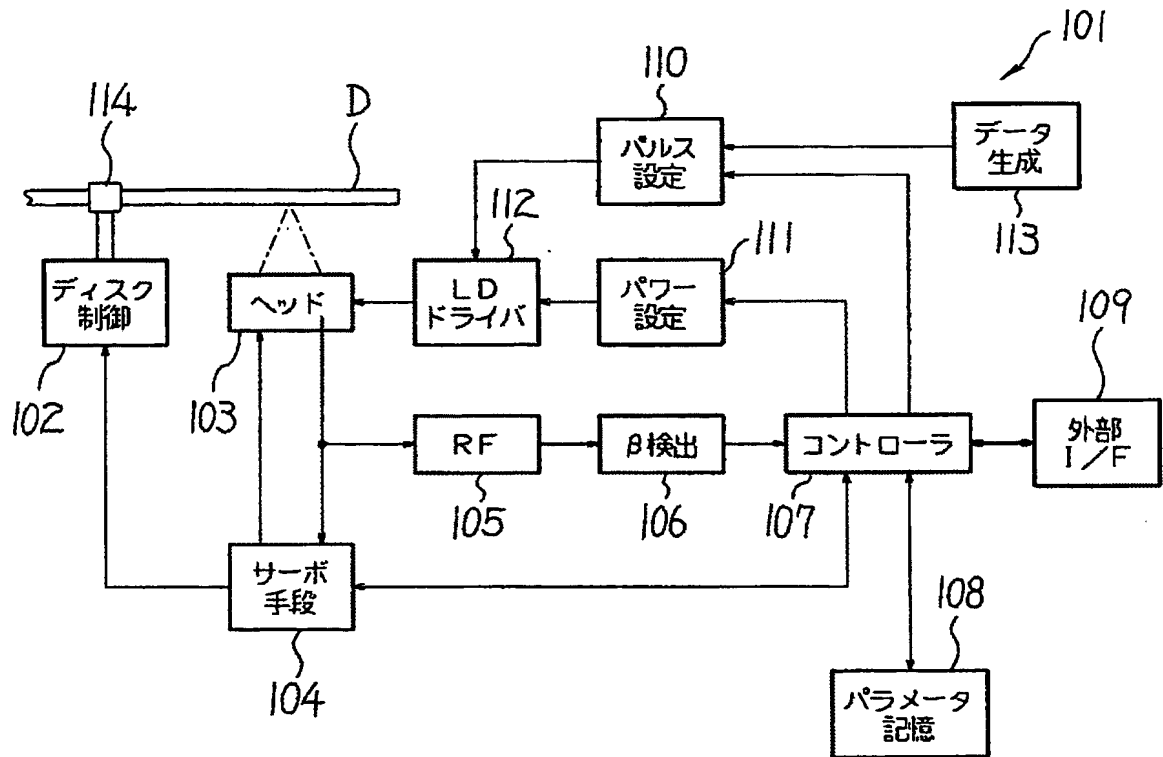
202b, 202e 部分

【書類名】 図面

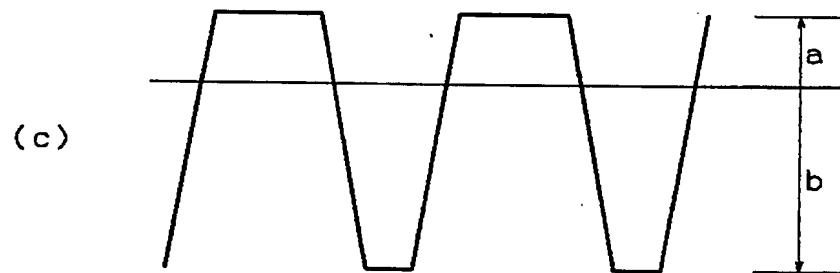
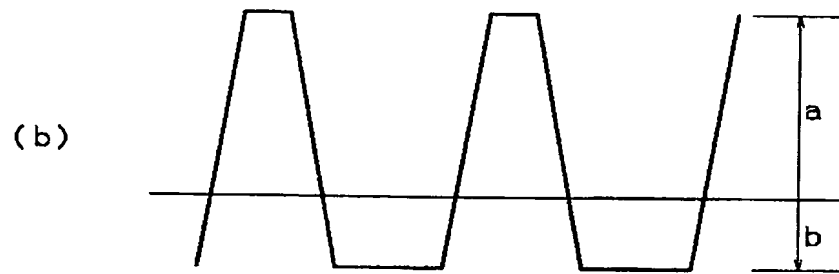
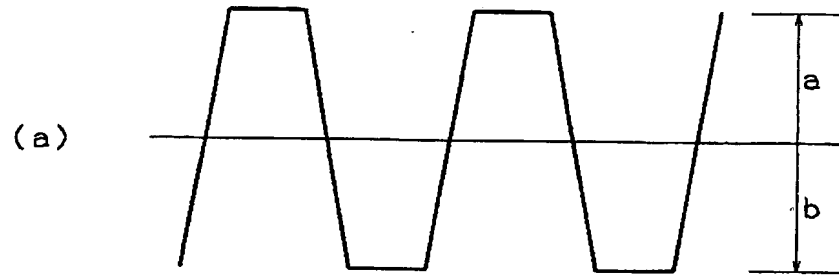
【図 1】



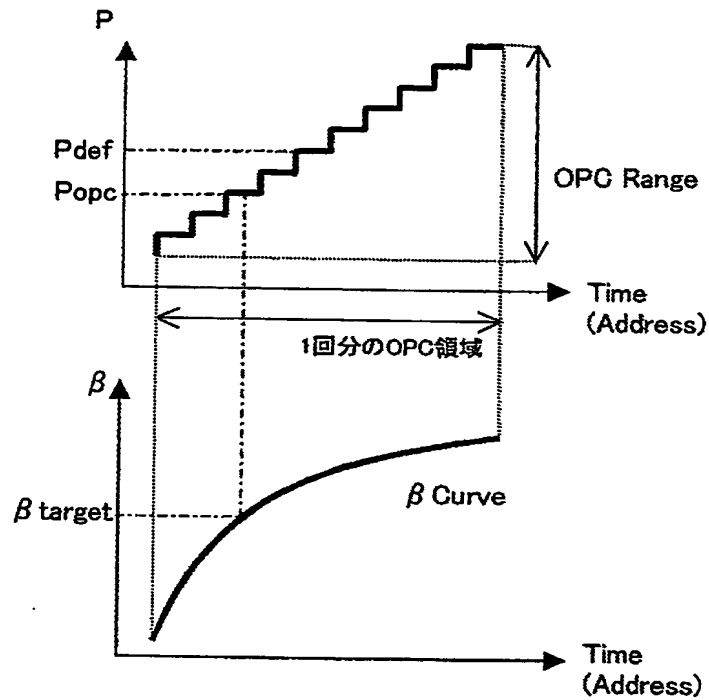
【図 2】



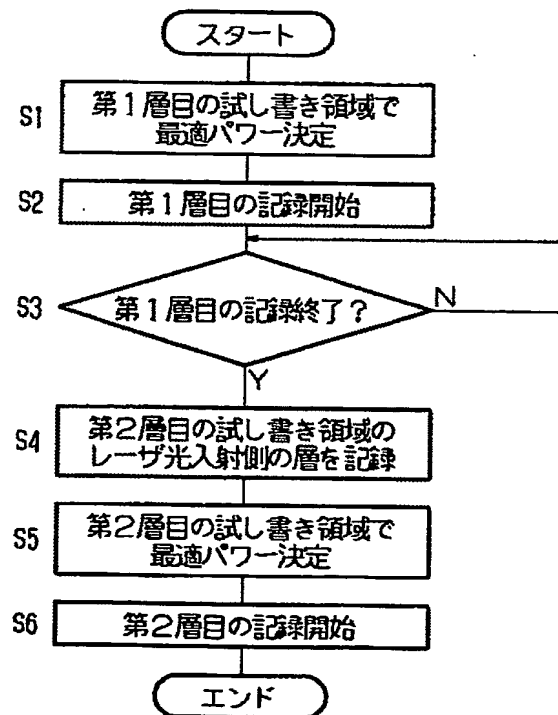
【図 3】



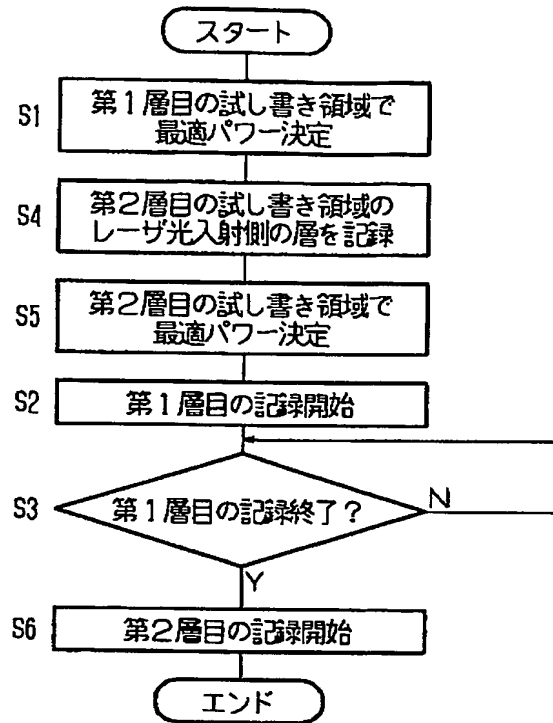
【図 4】



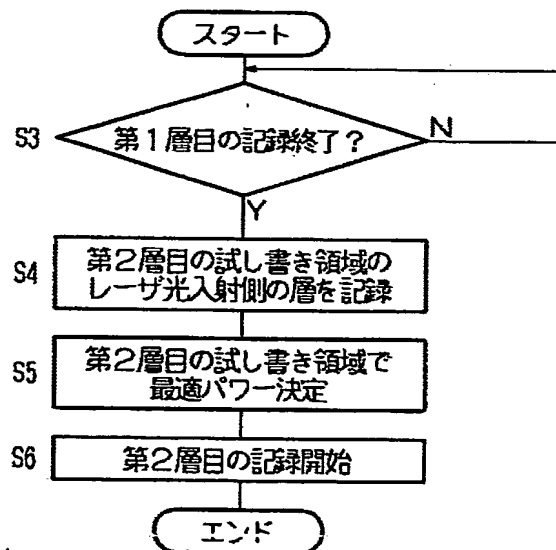
【図 5】




【図 6】



【図 7】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 多層記録媒体の第2層目以降の記録層に情報の記録を行う場合に、試し書きにより最適な記録パワーを求めることができるようにする。

【解決手段】 光の入射側から数えて第2層目の記録層 2 0 3 に情報記録を行う場合に、記録層 2 0 3 より光の入射側に位置している第1層目の記録層 2 0 2 にすでに情報の記録がなされているときは、第2層目の記録層 2 0 3 の試し書き領域 2 0 3 b で試し書きを行う前に第1層目の記録層 2 0 2 で試し書き領域 2 0 3 b と同一の記録面に位置する部分 2 0 2 d に記録を行う。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 3 9 2 2 0 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 6 7 4 7 ]

1. 変更年月日

2 0 0 2 年 5 月 1 7 日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

氏 名

株式会社リコー